

わたしなりの持続可能な開発目標

使用者委員 柳田由美

最近、新聞やテレビの中でよく聞くようになったSDGs、出来ることは何だろうと日常生活の中で考えてみる。趣味で金継ぎを習っているがこれもそのひとつかな。金継ぎとは、割れや欠け、ヒビなどの陶磁器の破損部分を漆によって接着し、金などの金属粉で装飾して仕上げる修復技法。自分で修復した器にはさらに愛着がわき、大切に使いたいと思う。物を大事にする・・・とてもいいこと。

先日は長い間 着ることのなくなった衣装類や靴、バッグなどをワクチンに替えて寄付するサイトを見つけたので試してみた。大切にしてきたものが次の誰かの役に立つ。そして開発途上国へ古着を送ることにより再利用だけでなく現地での雇用創出にもつながるとか。サステナブルな古着の再利用、ワクチン寄付で子供が救えて、国内外での雇用創出。しかもお部屋はすっきり。ゴミに出すこともなく、罪悪感もわかず、むしろ何かに貢献できたようでいい感じ。

探していくと日常の中にわたしなりの持続可能な開発目標はいくつか思いついてくる。

生ごみから美味しい野菜を作ろう！と興味をそそられる情報を見つけた、コンポスト。実際、自分の料理からどのくらいの生ごみが出ているのかを知ることで、環境に対して私なりの配慮が生まれてくる。生ごみとして処分していた部分（腐ったものではありませんよ）を料理アプリの検索にかけて新しいレシピをチャレンジしてみる。日常の少しの気づきと努力で、ごみの量が減り、レシピの数が一品ふえる、それでも出てしまった生ごみ類はコンポストに入れて堆肥を作って、また新しい野菜づくりに挑戦する。とても面白くていい感じ。

コロナ禍で気持ちは下向きになってしまいがちだが、そんなときは大きく深呼吸をしていつもとは違う方角から何かにチャレンジして自分を褒めてあげたい。さあ、頑張らなきゃ！